

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
大阪ビジネスカレッジ 専門学校	昭和57年3月31日	青山 直	〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜1-1-7 (電話) 06-8341-4403																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人Adachi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台二丁目11番地 (電話) 03-5283-6288																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	ビジネス専門課程	フラワーデザイン学科	平成13年文部科学省 告示第84号	—																						
学科の目的	フラワーデザインに特化したフラワー資格検定合格を踏まえたカリキュラムにより、フラワー業界で必要となる知識や技能を身に付け、将来、フラワー業界で活躍できる人材を育成する。																									
認定年月日	平成29年2月19日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	1920	716	0	1204	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人	50人	3人	3人	9人	12人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席状況、試験による点数評価、制作課題評価																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月26日～9月5日 ■冬季:12月20日～1月9日 ■学年末:3月31日	卒業・進級 条件		学費納入が滞っておらず、試験等に合格し、本校所定の課程を修了したと認められた者																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席がちな学生や、経済面で不安を抱える学生などに対して、本人及び保護者へのカウンセリングを行う。登校できない場合は、電話やメールを利用したカウンセリングを実施。	課外活動		■課外活動の種類 姉妹校とのEXTENSION講座の実施、学園祭等の実行委員会 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																						
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) ■就職指導内容 自己分析指導、エントリーシート作成指導、履歴書作成指導、SPI試験対策、一般常識筆記試験対策、面接指導、グループディスカッション対策 ■卒業生数: 18人 ■就職希望者数: 18人 ■就職者数: 17人 ■就職率: 94% ■卒業生に占める就職者の割合: 94% ■その他 ・進学者数: 0人 ・無業者数: 1人 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NFD検定資格(2級)</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 産学協同フラワーアイテム企画販売 ⇒プロサッカーチーム「ヴィッセル神戸」とのコラボレーションでオリジナルグッズを企画・制作・販売。</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	NFD検定資格(2級)	③	9人	9人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
NFD検定資格(2級)	③	9人	9人																							
0	0	0	0																							
0	0	0	0																							
0	0	0	0																							
中途退学 の現状	■中途退学者: 1名 平成30年4月1日時点において、在学者38名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者37名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 精神面の不調 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任面談、奨学金案内、休学案内、転校手続き、出席不足者への補講、成績不振者への追試験実施		■中退率: 3%																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 校友会(同窓会)入学時奨学金制度、校友会(同窓会)進級時奨学金制度、特待生試験制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・乗給対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	URL: <a href="http://www.obc.ac.jp">http://www.obc.ac.jp</a>																									

(留意事項)

- 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください
- 就職等の状況(※2)  
「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業生等者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業生等者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くこととします。自家・自営業に就いた者は含めず、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。
- 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生が実務的専門知識・技術を習得することは、社会においてその貢献や意義は大きく高等教育において専門学校的位置づけは更にその度合いを増している。その状況において、本校が企業との連携によって教育機会を提供することは、社会への貢献度が増し企業が要望する人材の育成に繋がる。

企業との連携を通じ、学生に実践的知識や技術を修得させるとともに、職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図り、学生全員の就職を目的とし、必要に応じて授業科目や授業法の改善・工夫を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人Adachi学園設置 大阪ビジネスカレッジ専門学校に關係する、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、學術關係者から選出し、校長が委員の中心となり委員会を設置。委員会の意見等は校長の配下の各学科の分科会等で具現化する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
茅根 英之	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	②
川瀬 博之	イオンリテール株式会社	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	③
山本 眞弘	株式会社 夢現社	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	③
白倉 亮一	株式会社ジャヴァコーポレーション	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	③
澤原 眞佐代	株式会社玉屋	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	③
小柴 昌弘	株式会社マックススポーツ	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	③
大高 紳吾	株式会社わんわん	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	③
青山 直	大阪ビジネスカレッジ専門学校 校長		
深町 史朗	大阪ビジネスカレッジ専門学校 事務長		
吉田 和弘	大阪ビジネスカレッジ専門学校 学務実務責任者		
岩屋 敦子	大阪ビジネスカレッジ専門学校 学科長		
仲谷 吉隆	大阪ビジネスカレッジ専門学校 学科長		
井上 章子	大阪ビジネスカレッジ専門学校 学科長		
岡本 一美	大阪ビジネスカレッジ専門学校 学科長		
武知 達也	大阪ビジネスカレッジ専門学校 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年3月29日 17:30～19:00

第2回 平成30年9月14日 17:30～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専攻分野の業界団体、企業様より、該当産業分野全体の成り立ち、企業現場での実務(開発、生産、流通、利潤の獲得、利潤の再分配、再生産)の流れを授業に取り入れてカリキュラムの編成を行う。

2 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

連携企業から講師を招き、本学とカリキュラム編成を検討し、実習授業を展開していく。学期末には、実習成果として担当講師(企業)より評価をいただく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と連携し、講師が打ち合わせを行い、カリキュラムを立案する。

フラワー業界に必要な専門技術、専門知識、ビジネススキルなどを学ぶために講師を派遣していただき、講義・実習を経て、将来フラワー業界で即戦力として働くことができる人材を育成する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
フラワーアレンジメント	知識と技術を実践的に学び、フラワーデザイナーとして求められる資質を体得し、NFD検定2級取得を目指す	(有)きのしたけいこフラワーエフェクト フラワーデザインスタジオ
検定指導	NFD検定2級取得に向けての授業対策を行う (学科科目対策指導・実技科目対策指導)	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修等」を実施し、教員として必要な知識と質の向上を図り、学生の知識・技能等の修得と充実した学校生活を提供できるよう、定期・不定期に拘らず関係教職員の指導力向上を目指すことを目的として実施するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第21回京都府立植物園フラワーデザイン展」(連携企業等:(公社)日本フラワーデザイナー協会)

期間:令和1年9月28日(土)・29日(日) 対象:専任教員3名、兼任教員2名

内容:「フラワーハーモニー」と題して、植物の魅力に注目し、フラワーデザインの楽しさについて発見する。磨き抜かれた感性と卓越した技術で、コンテスト形式で実施して一般公開。出展者全員に講評を頂く。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「キャリアコンサルティングへのプロセス」(連携企業等:関西カウンセリングセンター)

期間:平成30年3月29日(木) 対象:専任教員11名、非常勤教員63名 ※全教員対象の研修のため、他学科の教員も含む。

内容:エニアグラムの9つの性格タイプは、異なった特徴を持っている。大切なことは、エニアグラムのタイプは、どのタイプが優れているか、劣っているか、または良い悪いの区別ではない。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「レクチャースキルブラッシュアップ講座“伝え方を学ぶ”」(連携企業等:(公社)日本フラワーデザイナー協会)

期間:令和2年1月25日(土) 対象:専任教員3名、兼任教員2名

内容:レクチャー向けにレクチャー法をブラッシュアップし、的確な講評を行う力と、フラワー造形に関する技能についてシチュエーション毎に学ぶ。職業訓練指導員から歴史や知識を学び、本校学生へ教授する。実地訓練でリアル装飾へ繋げる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「出席不良学生対応事例検討」(連携企業等:関西カウンセリングセンター)

期間:平成30年9月14日(金) 対象:専任教員11名、非常勤教員63名 ※全教員対象の研修のため、他学科の教員も含む。

内容:後期を迎えるにあたり、進級・卒業・進路決定が大きな目標になるが、いまだそのピッチに立てず方向を定められずにいる学生が一定数居る。学生との面談経過を事例研究を交えて検証する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価や日常の学校教育に対する評価・意見内容を教育活動面と学校運営面に分別し、学務・広報・事務の三位の各部門で運営方針に照らし協議・検討する。その結果、授業内容に取り入れられたり、改善・修正を要するとした場合は、部門よりを責任者会議に具体的な稟議提案を上申し、最終的判斷することによって、学校関係者評価の効果的な活用を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学園の理念、学校の目的・特色の明確化と育成する人材像
(2) 学校運営	運営方針に即した事業計画が策定、運営組織の意志決定機能の円滑
(3) 教育活動	職業教育に適するカリキュラムの策定に際し、その学科の関係する業
(4) 学修成果	学校継続率、就職率の向上
(5) 学生支援	在学生への経済的・健康管理・生活全般への支援体制並びに卒業生
(6) 教育環境	授業運営上の付属施設、設備、実習施設の環境及び防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	学生募集全体の適正と活動上における教育成果の正確な伝達の確認
(8) 財務	予算・収支計画の有効性と財務面の適正
(9) 法令等の遵守	法令の遵守、個人情報取り扱い確認
(10) 社会貢献・地域貢献	—
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

基本方針に即し、とりわけ学科の教育目標、育成人材像が業界のニーズに対応できているか、カリキュラムは体系的に編成され、各教科目はカリキュラムの中で適正な位置付けされているか、卒業者就職率・求職者就職率・専門業界就職率の向上が図られているかなどの点を学校関係者評価委員からの評価を重視し、学校運営に活かす。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 匡史	株式会社東京ビジネス	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	企業等委員
川瀬 博之	イオンリテール株式会社	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	企業等委員
白倉 亮一	株式会社ジャヴァコーポレーション	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	企業等委員
澤原 真佐代	株式会社玉屋	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	企業等委員
小柴 昌弘	マックススポーツ株式会社	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	企業等委員
山本 真弘	株式会社 夢現社	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	企業等委員
岡 真由美	有限会社 PURENESS	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	企業等委員
森本 博士	株式会社 創英	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年)	卒業生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL: <http://www.obc.ac.jp>

公表時期: 令和1年12月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全般の状況を広く学校関係者他に情報提供することによって、学生・保護者、業界関係者の学校への理解、信頼を深め、社会に対する説明責任を果たす。また、企業、関係団体等とは連携、協力を行うことによって、カリキュラム策定の際に、助言、指導を頂き、実践教育の質を高めることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の精神、所在地、校長名、沿革・歴史
(2) 各学科等の教育	設置学科の入学定員・収容定員・在学学生数、カリキュラム、進級・卒業要件、資格・検定
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動

(6) 学生の生活支援	健康診断、カウンセリング体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援活動
(8) 学校の財務	資金収支計画書・消費収支計画書・貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価表
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<http://www.obc.ac.jp>

授業科目等の概要

(ビジネス専門課程フラワーデザイン学科) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			フラワービ ジ ネ ス 論	造形活動を行う上での構成理論について学 び、NFD検定の学科試験対策も行う	1 通	68		○			○		○	○	
○			販売士検定指 導	マーケティングや商品・仕入計画、販売・ 経営管理など、販売やショップ運営に欠か すことのできない知識を学び、検定取得に 向けての対策を行う	1 通	136		○	○		○				○
○			ビ ジ ネ ス マ ナ	ビジネスマナーの基本と心得を理解し、立 ち居振る舞いや身だしなみなど、就職活動 でも必要となるマナーを身に付ける	1 通	68		○	○		○			○	○
○			○ A 技 能	Wordを使用し、ビジネス文書の基本フォ ームから文章表現などビジネス実務に役立つ 操作の基本から応用までを学ぶ	1 通	136				○	○	○			○
○			一 般 教 養	就職・入社試験対策として、一般教養の学 習とともに社会人として必要なビジネス理 論・社会常識を身につける	1 通	68		○			○			○	○
○			フ ラ ワ ー ス ケ ッ チ	植物形態を観察し、的確に表現するデッサ ン力（造形・色彩・バランス）を養う	1 通	136			○	○	○	○			○
○			フ ラ ワ ー ア レ ン ジ メ ン ト	四季を通じてヨーロッパスタイルの知識 と技術を実践てきに学び、フラワーデザイ ナーとして求められる資質を体得し、NF D検定3級取得を目指す	1 通	272				○	○	○	○	○	○
○			簿 記 会 計	商品の仕入れから販売、利益の計算などビ ジネスにかかせないお金の流れを学び、全 経簿記3級取得に向けての対策を行う	1 通	136		○			○				○
○			フ ラ ワ ー ビ ジ ネ ス 論	1年次に引き続き、造形活動を行う上で必 要な構成理論および、NFD検定の学科試 験・フラワー装飾技能士検定の学科知識も 学ぶ	2 通	60		○			○			○	○
○			検 定 指 導	フラワー系検定および免状（NFD検定・ 華道）取得に向けての対策を行う	2 通	120		○	○	○	○	○	○	○	○
○			ビ ジ ネ ス マ ナ	あいさつや好感のもてる話し方など、接客 をする上で必要となるマナーを学ぶ	2 通	60				○	○	○	○		○

○	○	A 技能	Excel を使用し、表計算・グラフ作成・データ管理などビジネスの実務に役立つ操作の基本から応用までを学ぶ	2通	120				○	○	○				○
○		一般教養	就職・入社試験対策として、一般教養の学習とともに社会人として必要なビジネス理論・社会常識を身につける	2通	60			○			○			○	○
○		カラーコーディネート	色の持つ役割や効果について理論的、実践的に習得し、フラワー業界で注目度の高い色彩検定合格を目指す	2通	120			○	○		○				○
○		フラワーアレンジメント	四季を通じてヨーロッパスタイルの知識と技術を実践てきに学び、フラワーデザイナーとして求められる資質を体得し、NFD検定2級取得を目指す	2通	240			○	○	○	○	○	○	○	○
○		簿記会計	商品の仕入れから販売、利益の計算などビジネスにかかせないお金の流れや販売接客についてのノウハウを学ぶ	2通	120			○			○				○
合計				16	科目	1,920単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
試験等に合格し、本校所定の課程を修了したと認められた者		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	1年17週 2年15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。